

福島のおゆき国会日誌

< 統治能力を失った岸田政権に野党一致団結して立ち向かいます >

28日、6党1会派による野党国会対策委員長会談が開かれ、有志の会を代表して出席してまいりました。

まず、10月3日に国会を開会すると政府から通告がありました。この間、細田博之衆議院議長と旧統一教会との密接な関係が報道されております。私から、この問題での納得のいく説明がない限り国会審議に応じるべきでないことを主張し、全野党会派が一致してそのような対応をとることを確認いたしました。

次に、8月のお盆前に野党各党会派は憲法第53条に基づく国会開会要求を提出しましたが、政府与党からは一切反応がありません。憲法にいつまでに開く義務があるかの規定がないからです。臨時国会初日に、召集期限を定める国会法改正法案を提出いたします。

適正な手続きをとり、関係者と調整をし、スケジュールを組んでいくという当たり前の統治能力が岸田政権にはありません。内外とも問題山積の中、このような内閣に日本を委ねることはできないでしょう。10月3日からの臨時国会は、与党に対して野党各党会派が一丸となって対峙してまいります。これまでと全く違う緊張感のあるガチンコ国会にしてまいります。ぜひ、皆さんご注目ください。

< 有志の会 研修会を開催 >



12日から2泊3日で有志の会研修会を京都で開催しました。山形大学大学院の村上正泰教授から地域医療について、京都大学公共政策連携研究部の奈良岡聡智教授からは戦前の二大政党政治に見る日本での二大政党制の可能性についてご講義いただきました。

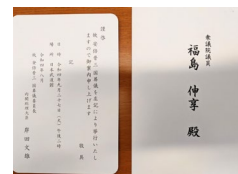
中西輝政京都大学名誉教授から現下の安全保障をめぐる状況と、「保守とは何か」という骨太なご講義をいただきました。「保守」とは、文化、歴史などの価値観の問題であり、安全保障や憲法9条をめぐる「保守かリベラルか」と違いが分かれる日本の政治体制はそもそもおかしい、とお話いただきました。

幕末の政治が京都から動いたように、日本の歴史の転換点は必ず京都が舞台となります。今年は、日本の政治にとっての歴史的な転換点になる雰囲気があります。

< 故安倍晋三国葬儀に参列 >

27日、いろいろ議論のあった「国葬儀」に参列しました。国会で何度も対決をし、20年前から個人的なつきあいのあった私にとって、人間として礼儀として出席しない選択肢はありません。一方、なぜ安倍首相が国葬されるのか、実施までのプロセスも含めて納得する点はありません。故人を静かに送る環境を作れなかった岸田総理の責任は、重いと考えます。

それでも、葬儀が始まり、遺族代表の昭恵夫人に安倍元首相のご遺骨が抱かれて入場してくると、何度も国会の場で覚悟を持って対峙したあの安倍首相が、落選中の私に電話をいただき温かい言葉をかけてくださったあの安倍さんが、私たちが与党の時に一緒に勉強会で自信なさそうに話をするあの安倍さんが、一つの小さな箱になってしまっていることを目の当たりにして、もう会うことはかなわないことを改めて実感し、胸の奥底から熱いものが込み上げてきた。心からご冥福をお祈りいたします。



福島伸享活動 LINE



衆議院議員 福島伸享事務所

【国会事務所】〒100-8982 東京都千代田区永田町 2-1-2 衆議院第二議員会館 419 号室

TEL 03-3508-7262 FAX 03-3508-3532 メール h19293@shugiin.go.jp